

県民ひろば

2025年10月10日
 No. 74
 発行/県民クラブ
 連絡先/大分県議会
 大分市大手町☎(097)536-1111代
<https://kenmin-club.com>




暮らしの現場に寄り添って「くんと」 県民クラブ 玉田 輝義（豊後大野市）

先日、連続テレビ小説「あんぱん」が最終回を迎えました。アンパンマンの生みの親であるやなせたかしさんご夫婦をモデルにしたこのドラマを、私は毎日心待ちにしていました。やなせさんは生前、「本当の正義とは、おなかのすいている人に自分の食へ物を分けてあげること」と語りました。彼の言う「逆転しない正義」、つまり勝者も敗者も生まない、ただひたすらに他者を助けるという純粋な行為こそが、戦争を体験したやなせさんご夫妻が問い続け、アンパンマンという形で結実させた答えなのだ、と、ドラマを通じて深く感じました。

アンパンマンが絵本に初めて登場してから半世紀以上が経過しました。その間、やなせさんが思い描いた「逆転しない正義」は、現代社会にどれほど根付いているのでしょうか。そう考えると、何とも言えない暗い気持ちになります。

テレビの向こうではガザの惨状が映し出され、配給された食料を人々が奪い合い、瓦礫の中でやせ細った子どもたちが細かい息をしていますが、こうした飢餓は紛争だけが原因ではありません。気候変動や経済の不安定化、食料価格の高騰などが複雑に絡み合い、国連世界食糧計画の発表によれば、2023年に飢餓に直面した人々は最大で約7億5,700万人に上り、世界人口の11人に1人に相当します。目を国内に転じても、子どもの貧困率は11.5%、約9人に1人が貧困状態にあるという現実があります（2021年厚生労働省「国民生活基礎調査」）。子どもの貧困は、適切な食事や教育の機会を奪い、その子の未来や自立を困難にする深刻な社会問題でありながら、その解消は

遅々として進んでいません。しかし、絶望ばかりではありません。8月15日は戦後80回目の終戦記念日でした。私は毎年この日に「平和祈念の集い」を催しており、今年も弁護士徳田靖之先生にご講演をお願いし、豊後大野市までお越しいただきました。

先生は講演の最後に、アメリカ大統領宣言から約200年後にオバマ大統領が誕生した歴史を挙げ、「社会は変えることができる」と静かに、しかし力強く語られました。先生はこう続けます。「独立宣言は「生命、自由、幸福の追求」という普遍的な権利を掲げ、当時としては画期的でした。しかし、その「すべての人には先住民や奴隷とされたアフリカ系の人々、そして女性は含まれていなかったのです。それでも、キング牧師のような指導者だけがなく、名もなき市井の人々が、絶えず人権獲得のために声をあげ続けたからこそ、社会は変わり、オバマ大統領の誕生へと繋がったのです」。

私たち地方議員の活動の現場は、まさに人々の暮らしの場そのものです。徳田先生の言葉にあった「市井の人々の声なき声を丁寧を受け止め、それを法や制度、政策へと繋いでいく」という重要な役割を私たちは担っています。

地方自治の現場には、すぐには解決できない多くの課題が山積しています。だからこそ、現状が今日から明日にかけて劇的に変わることはないかもしれませんが、それでも、社会を少しでも良くしようとする努力をしている人々に寄り添い、その声を力に変えて、共に声をあげていく、そんな「県民クラブ」でありたいと心から思います。